

策定年度	平成21年度
策定地域	琴平町

琴平町地域水田農業ビジョン

琴平町地域水田農業推進協議会

目 次

1. 地域水田農業の改革の基本的な方向について	
1) 地域水田農業の特性について	1
2) 作物振興及び水田利用の将来方向	1
①地域の水田の活用方策について	1
②売れる米づくりの取り組みについて	1
③麦・大豆の生産振興について	2
④野菜の生産振興について	2
⑤畜産と飼料作物の循環型農業の推進について	3
3) 担い手の状況と担い手育成の将来方向について	3
①認定農業者の育成・確保について	3
②集落営農について	3
2. 具体的な目標について	
1) 作物作付け計画について	6 (別表 1)
2) 作物販売計画について	7 (別表 2)
3) 担い手の育成について	4
4) 担い手への土地利用集積について	4
3. 地域水田農業ビジョン実現のための手段について	
1) 水田農業構造改革交付金（産地確立交付金）の活用方法	4
①円滑な生産調整の推進	4 (別表 4)
②重点作物の振興	5
2) その他の活用事業	5
4. 担い手の明確化について	
1) 担い手リスト	8 (別表 3)

1. 地域水田農業の改革の基本的な方向について

1) 地域水田農業の特性について

琴平町は香川県の中西部に位置し、金刀比羅宮が鎮座する象頭山の東部に広がる平野の一角を占め、町全体の面積が 8.46k m²と狭い。気候は瀬戸内海気候で温暖であり、町の南西部を金倉川が流れ、溜池は少ないが出水は多く、農業用水は出水とともに香川用水と満濃池の利用により、耕地状態はほぼ潤沢な農地となっている。

しかし、農家数は平成12年の397戸から平成17年は380戸に減少し、平成17年総農家の耕地面積は256ha（2005年農林業センサスより）となっている。

また、農家のほとんどが零細経営であり（平均経営面積58a）、経営形態は水稻や麦が中心であるが、零細性を補う為に農地の高度利用が盛んであり、地域特産物としてレタス、にんにく、なばな、黒大豆、ブロッコリー、オクラ・キャベツの栽培を取り入れた複合経営で生産性を向上してきた。

2) 作物振興及び水田利用の将来方向

①地域の水田の活用方策について

当地域は米の生産調整政策が展開されてきたなか、最近では兼業化や農業従事者の高齢化・減少化などに伴う労働力の低下が進行しており、農用地の宅地化による耕地の減少や利用効率の低下、農地の遊休化が進むなど地域農業の維持が難しくなっている。

そして、農家の零細経営による収益性の悪化や後継者不足が深刻化してきている。これには生産性の向上と経営の安定が実現するよう、大型機械による効率の向上や作物の団地化、農業経営の多角化の推進、作業受委託や土地利用集積の推進・集落営農などの生産組織の推進が不可欠となっている。

一方では、宅地化が進み農地は今後も減少すると思われるが、立地的にも門前町であることを活かした観光産業への地産地消の働き掛けや高付加価値の都市近郊型農業の推進をしていかなければならない。

そのためには今後も長期的に、地域特産物の振興と開発、生産基盤の整備、担い手の育成と確保、農業流通対策の改善に取り組んでいく必要がある。

また、中山間部と住宅密集地域に隣接した耕作不利地においては、不作付け地が拡大してきた。このような農地は大型の農作業機械の搬入が出来ず、維持管理や農地の流動化が難しくなっている。

こうしたなか、平成18年特定農業団体を設立するとともにふれあい農園、学童農園の設置等、生産者と消費者を併せた地域ぐるみの環境保全に図るとともに、水田の維持と食料自給力・自給率向上の観点から調整水田等不作付地への作物作付拡大の推進につとめる。

②売れる米づくりへの取り組みについて

当地域の米生産は、コシヒカリとヒノヒカリを中心にはえぬき、オオセトやクレナイモチが栽培されている。コシヒカリ、はえぬきにおいては良食味品種として県内市場での販売中心であるが、品質と食味の向上が急務であり、普通期栽培へのスライドと作付けの拡大を推進していきたい。ヒノヒカリは県外向け業務用途主体の販売が中心となっているが、品質の向上が急務となっている。

また、オオセトは酒造用米として需要があり、カントリーエレベーター利用を条件として栽培を行っている。

そこで、消費者の多様なニーズに対応した特色のある米産地を目指すため、JA 香川米等地域の自然立地条件を生かした食味重視の生産と、安全・安心を基本としたトレーサビリティの確立を図る。また、直播等の省力栽培技術の推進や環境に配慮した栽培方法への転換を図る。

a) 地区別の米の品種選定と推進方向について

町内の農地面積は少ないので地区を分けることは困難であるが、全体としてはヒノヒカリ、はえぬき、オオセト等の業務用対応米と普通期コシヒカリを推進する。また、冬野菜作付けの熱心な地区では、はえぬき、ヒノヒカリ、オオセト等の業務用対応米を主に推進することとする。そして、野菜作付けの少ない地区では、普通期コシヒカリとともにヒノヒカリやオオセト等の業務用対応米を推進し、麦・大豆の生産推進を基本として、担い手と生産集団の育成を図り、良質麦生産と併せはだか麦生産の拡大を図るとともに野菜産地の育成を図る。

b) 品質・食味向上対策

品種別の適期移植を誘導するとともに、仲多度カントリーエレベーターの利用推進により、均一で高品質に調製仕上げた米を多様化する販売先に即応し、市場競争力の強化に努める。

また、食味重視の栽培に取り組むためには、土壌改良資材の機械散布支援活動の展開や、栽培指針の作成による、施肥改善と病害虫雑草防除の安全使用の徹底を図る。特にコシヒカリは多肥による倒伏の回避と食味・品質の向上のために野菜あとでは栽培を避け、普通期栽培を推進する。

c) 生産コストの低減について

零細農家が多い当地域において、高額な農業機械施設を農家戸々で資本装備しており、農業経営を大きく圧迫しているうえに、生産資材の予約共同購入や配送コストの低減を図ってはいるものの、米価の下落幅の方が大きいのが現状である。

今後、特定農業団体を核とした農業機械施設の共同化や農作業受委託の推進を行うとともに、農作業受託者組織の育成に努める。さらに、土壌診断に基づく適正施肥により生産コストの低減を図る。

③ 麦・大豆の生産振興について

当地域の水田裏作の基幹作物である麦は、県内でも有数の良質麦産地であり、播種期や収穫時期の天候により品質や収量が多少影響するものの、はだか麦ではイチバンボシ、小麦では製麺適性に優れたさぬきの夢2000が栽培されている。

今後、栽培面積の拡大を行い経営の安定を図るため、地域や土壌にあった麦種での作付けの取り組みを推進し、はだか麦と小麦を組み合わせた栽培ほ場の選択と期間借地の推進による農地の集積に努める。

また、カントリーエレベーター利用により、実需者からの要望である品質の均一化と流通の簡素化によるコストの削減をはかる。

大豆については、黒大豆を中心にコストの低減を図るとともに、共同加工施設と近隣の産地直売施設や観光産業等との連携により契約栽培を行い、豆腐や味噌等の地元加工品のブランド化と地産地消を推進する。

④ 野菜の生産振興について

当地域では、軽量野菜であるブロッコリー、オクラ、なばな、などが作業支援体制の整備とともに作付け面積は増加している。特に、なばなの作付けは県内でも取り組みが早く、安定生産を今後とも推進していく。

また、にんにくにおいては県内有数の産地であり、今後も収益性の確保と生産量の安定を目指し、マルチ栽培の技術徹底を推進する。

レタス、キャベツについては、経営の安定を図るため、地域や土壌にあった作付けの取り組みを推進し、地域担い手育成総合支援協議会・農業委員会連携のもとで農地の利用増進や期間借地の推進による農地の集積に努める。

a) 共同育苗施設、集出荷貯蔵施設の強化と利用促進

b) 機械化一貫体系の確立

- c) 高付加価値化への取り組み等、ブランド産品開発
- d) トレーサビリティ・システムの確立
- e) 土壌診断に基づく適正施肥
- f) 環境に配慮した、栽培技術への取り組み
- g) 学校給食への食材供給等、地産地消推進

⑤畜産と飼料作物の循環型農業の推進について

当地域の畜産は、肥育牛、養鶏が営まれているが、高齢化の進行などから経営規模縮小している。そのうえ、飼料は輸入品で賄われているが、消費者には飼育はもとより飼料においても国産を使用した安全・安心な畜産物が求められている。

畜産農家から生産される堆肥は品質・価格に格差が大きく、耕種農家からの需要は少ない。

しかし、耕種農家の土作りに対する意識は高く、良質堆肥の施用が良品質な作物生産と減化学肥料にも繋がっている。

こうしたなか、畜産農家と耕種農家の連携を密にし、耕種農家による飼料作物の契約栽培に取り組むとともに、良質堆肥安定供給システムの確立を図る必要がある。

3) 担い手の状況と担い手の将来方向について

①認定農業者の育成・確保について

意欲ある農業者の取り組みにより、現に展開されている優良な農業経営の事例を踏まえながら、地区において多少の格差はあるものの他産業従事者と比べて遜色ない年間労働時間（主たる農業従事者 1 人当たり 2,000 時間程度）の達成と生涯所得に相当する年間農業所得（1 経営体当たり 450 万円程度）を確保することができるような効率的かつ安定的な農業経営を営める経営体の育成を目指す。

このため、関係機関との連携の強化を図るなど、支援体制の充実強化をより一層進め、コスト計算や労務管理のできる企業的センスを備えた経営体の育成を図る。

また、これらの経営体の規模拡大や生産方式の合理化に向けた取り組みに対し、集中的かつ積極的に支援する。

②集落営農について

地域水田農業において、個別担い手経営の育成・確保は重要な課題である。しかし、担い手の高齢化や小規模経営での機械の過剰投資のため、個別経営ではもはや農業を維持・発展が非常に困難な状況にある。

地域の農家を集落営農に組織化することを通じて、営農組織が土地利用計画や作業計画を立て、琴平町全体を一つの農場として経営することや、担い手の育成を推進していく。

また、関係機関と連携し、特定農業団体が早期に法人化できるよう支援をする。

2. 具体的な目標について

1) 作物作付け計画について

別表 1 のとおり

2) 作物販売計画について

別表 2 のとおり

3) 担い手の育成について

企業の経営感覚を持ち、地域水田農業に貢献できる優れた農業経営者の育成を図るとともに、意欲ある青年農業者や新規就農希望者が円滑に就農できるよう、受入体制等の整備を図る。

- a) 町・農協・地域担い手育成総合支援協議会など関係機関が一体となった指導・受入体制の整備
- b) 営農技術や地域水田農業の経営能力の習得を踏まえた研修会の開催
- c) 生産から販売までの一貫した知識や技能を高める講習会の開催
- d) 農業機械、園芸施設のリースシステムの整備
- e) 新規就農希望者相談窓口の充実

認定農業者（個別経営体）			集落営農等組織経営体		
現状(平成 20 年度)	目標(平成 22 年度)	目標(平成 25 年度)	現状(平成 20 年度)	目標(平成 22 年度)	目標(平成 25 年度)
14 人	15 人	16 人	2 団体	2 団体	2 団体

4) 担い手への土地利用集積について

地域水田農業の改善による望ましい経営の育成を図るため、土地利用型農業による発展を図ろうとする意欲的な農業者を中心に、現在実施している琴平町農業委員会を核とした活動をより一層活発化させ、認定農業者・琴平町営農組合に対して農地集積を図る、農地の出し手と受け手に係る情報の一元的把握のもと、両者を結びつけて利用権設定を推進していく。

また、これらの農地の流動化等に関しては、集落を単位とした土地利用調整を全町的に展開し、集団化・連担化した条件で担い手農業者に農用地が利用集積されるよう努める。

担い手の利用集積面積の目標					
認定農業者（個別経営体）			集落営農等組織経営体		
現状(平成 20 年度)	目標(平成 22 年度)	目標(平成 25 年度)	現状(平成 20 年度)	目標(平成 22 年度)	目標(平成 25 年度)
37.4ha	40.0ha	42.0ha	170.0ha	170.0ha	170.0ha
15%	16%	17%	68%	68%	68%

3. 地域水田農業ビジョン実現のための手段について

1) 水田農業構造改革交付金（産地確立交付金）の活用方法

< 交付要件 >

助成水田は生産調整実施水田（利用権設定に対する助成はこの限りではない。）であり、助成対象者は生産調整の達成者で、かつ集荷円滑化対策の生産者拠出金を納付している者とする。

ただし、重点作物、担い手対策への助成はさらに別途要件を設ける。

また、稲作構造改革促進交付金については、基本部分及び担い手集積加算部分とも、産地確立交付金に全額融通し、産地確立交付金の中で活用を図る。

①円滑な生産調整の推進

農家への意向調査を基にした生産調整を確実に実行するため、その者が属する集落が生産調整を達成した場合、定額（奨励金）を助成する。

②重点作物の振興

ア 麦

品質的にも評価の高い本地域産麦の面積維持・拡大と水田の土地利用率の向上並びに国内自給率向上を図るため、一定額を麦共済加入者に助成する。

イ 大豆

水稲作付け期間の水稲以外の土地利用型作物として面積維持・拡大及び国内自給率の向上を図るため、大豆作付け面積に対し、一定額を大豆作付け者に助成する。

ウ にんにく・オクラ・レタス・なばな・ブロッコリー・キャベツ

J Aを主体に作付けを推進中であり、農地利用率の向上のため、作付け面積に対し、一定額を助成する。

2) その他の活用事業

- a) 土地利用型農業構造改革加速化事業
- b) 水田等有効活用促進交付金
- c) その他国・県・町による補助事業

4. 担い手の明確化について

1) 担い手リスト

経営が一元化された特定農業団体・認定農業者、及び種子生産組合。

リストは別表3のとおり

【別表1】具体的な目標について

作物作付け計画

[単位：ha]

作物名	品種名	現状 平成20年度	目標年度		
			平成21年度	平成22年度	平成25年度
水 稻	コシヒカリ	42.0	43.0	43.0	43.0
	オオセト	6.4	13.5	13.5	13.5
	ヒノヒカリ	92.3	68.2	68.2	68.2
	はえぬき	13.3	30.0	30.0	30.0
	その他（もち含む）	8.6	12.5	12.5	12.5
	計	162.6	167.2	167.2	167.2
麦	はだか麦「伊バンボシ」	45.6	48.2	60.0	60.0
	小麦「さぬきの夢2000」	24.3	20.8	25.0	25.0
	計	69.9	69.0	85.0	85.0
大豆	白大豆（フクユタカ）	0.1	1.0	2.0	2.0
	黒大豆（香川黒1号）	1.8	3.0	3.0	3.0
	計	1.9	4.0	5.0	5.0
野 菜	にんにく	13.0	14.5	14.5	14.5
	レタス	9.5	12.0	13.0	13.0
	なばな	8.4	8.5	9.0	9.0
	オクラ	1.0	1.0	1.5	1.5
	ブロッコリー	4.0	4.5	5.0	5.0
	キャベツ	4.0	4.0	4.5	4.5
	計	39.9	44.5	47.5	47.5

【別表 2】 具体的な目標について

作物販売計画

〔単位：t〕

作物名	品種名	現状 平成 20 年度	目 標 年 度		
			平成 21 年度	平成 22 年度	平成 25 年度
水 稻	コシヒカリ	88.5	94.6	94.6	94.6
	オオセト	32.4	64.8	64.8	64.8
	ヒノヒカリ	275.0	204.6	204.6	204.6
	はえぬき	37.6	90.0	90.0	90.0
	その他（モチ含む）	2.5	26.3	26.3	26.3
	計	436.0	480.3	480.3	480.3
麦	はだか麦「仔バンボシ」	216.7	221.8	288.0	288.0
	小麦「さぬきの夢 2000」	117.3	90.3	121.2	121.2
	計	334.0	312.1	409.2	409.2
大豆	白大豆（フクユタカ）	0	1.5	5.0	5.0
	黒大豆（香川黒 1 号）	4.3	6.0	8.0	8.0
	計	4.3	7.5	13.0	13.0
野 菜	にんにく	124.3	135.0	135.0	135.0
	レタス	219.8	320.0	325.0	325.0
	なばな	67.8	68.0	76.5	76.5
	オクラ	18.0	18.0	18.5	18.5
	ブロッコリー	27.5	28.0	30.0	30.0
	キャベツ	200.0	200.0	225.0	225.0
	計	657.4	769.0	810.0	810.0